

令和7年度 愛知県臨床検査精度管理調査報告 細胞検査部門

2026年2月28日

豊橋市民病院

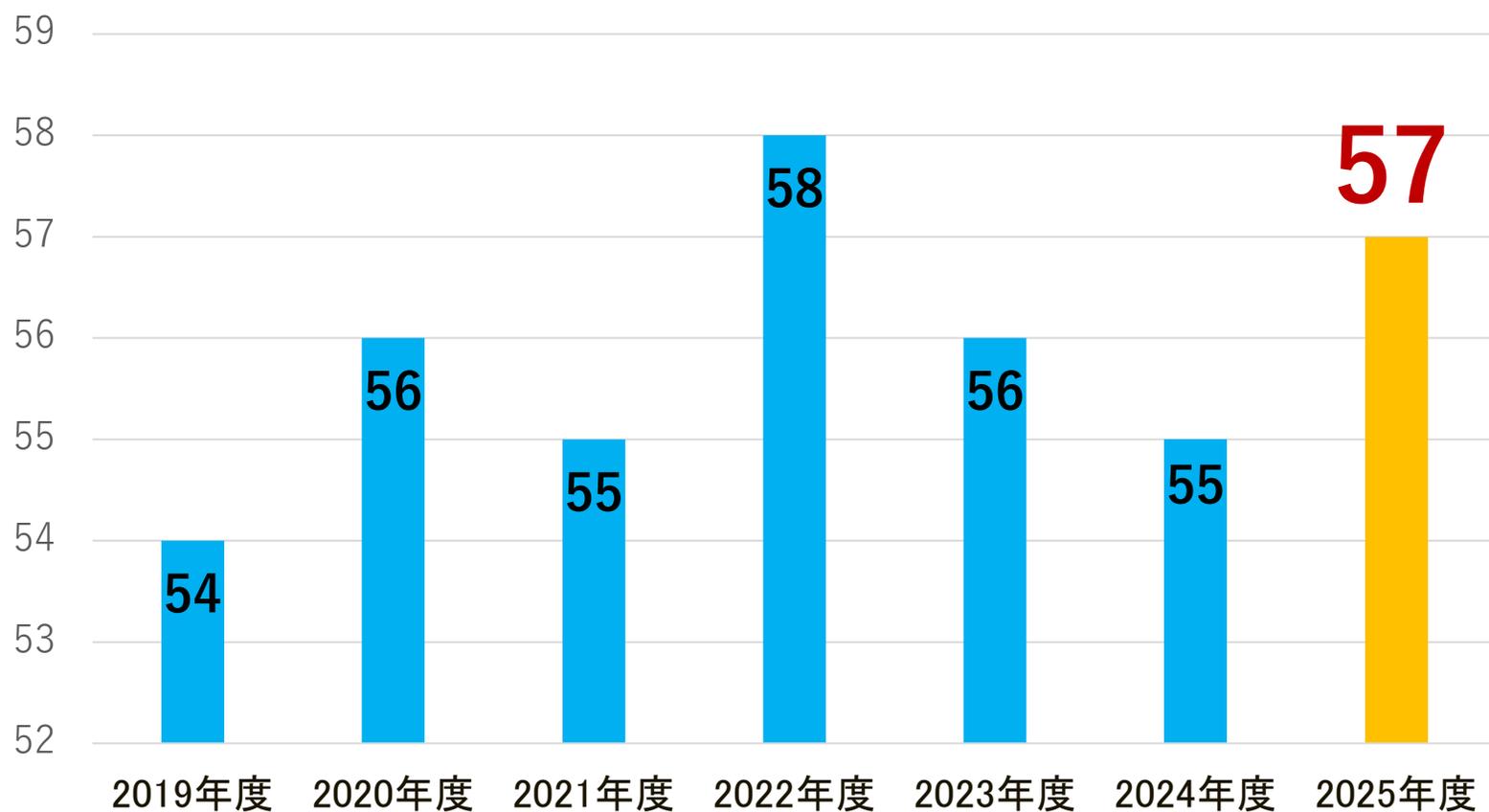
宮野 拓也

▼ 令和7年度愛知県臨床検査精度管理調査

実施内容

- ▶ フォトサーベイ
- ▶ アンケート調査

令和7年度細胞検査部門フォトサーベイ参加施設



令和7年度の
参加施設数

57件

▼ 細胞検査部門フォトサーベイ

▶ 問題

評価対象問題を10題出題

▶ 回答方式

写真から推定される病変を5つの選択肢から選択する

▶ 評価方法

正解を「評価A」とし、不正解を「評価D」と設定した

設問内容について

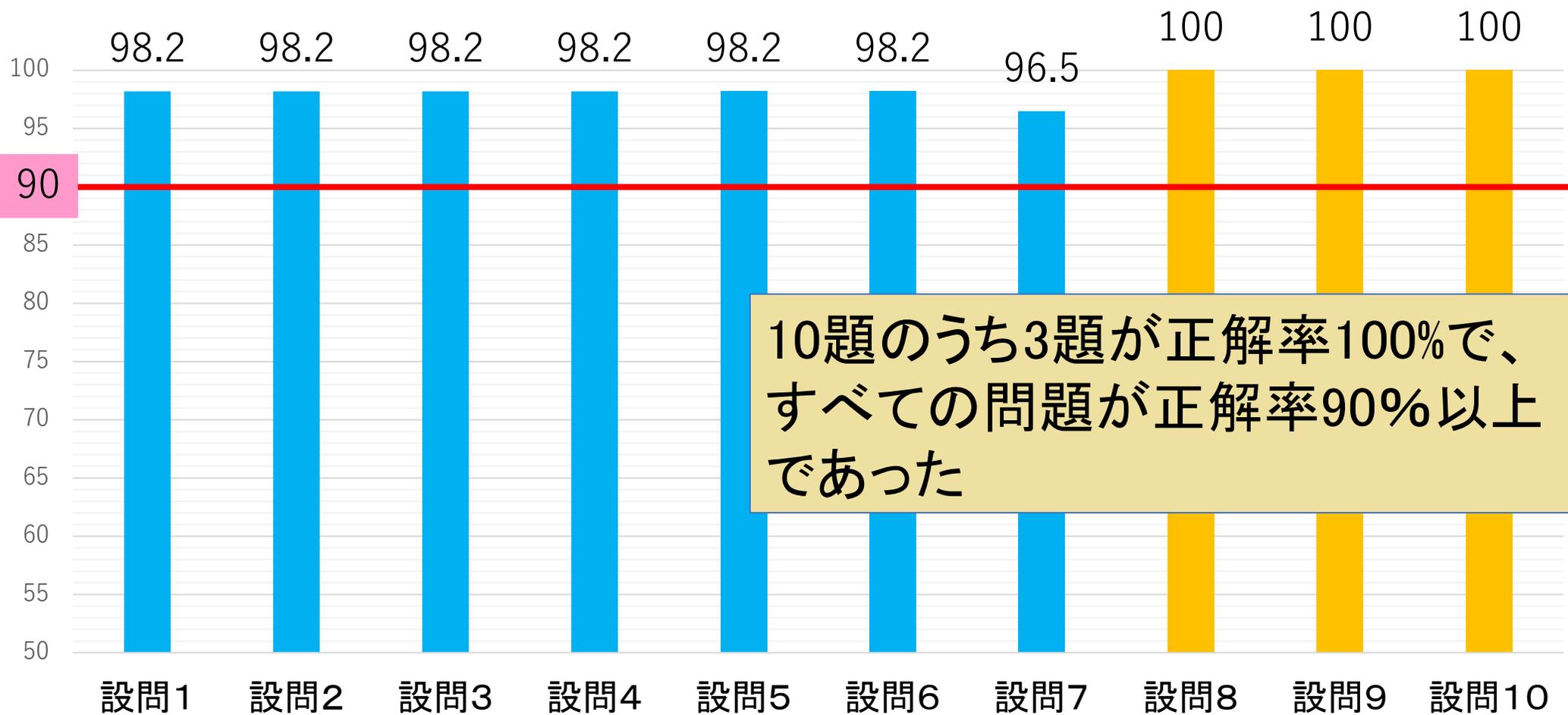
評価問題10題

婦人科	2問	耳下腺	1問
呼吸器	2問	胆汁	1問
体腔液	1問	泌尿器	1問
乳腺	1問	軟部腫瘍	1問

設問回答

設問1	Adenocarcinoma： 腺癌	設問6	粘液癌
設問2	類內膜腺癌	設問7	腺房細胞癌
設問3	扁平上皮癌	設問8	良性胆管上皮細胞
設問4	腺癌	設問9	Decoy細胞
設問5	惡性中皮腫	設問10	神經鞘腫

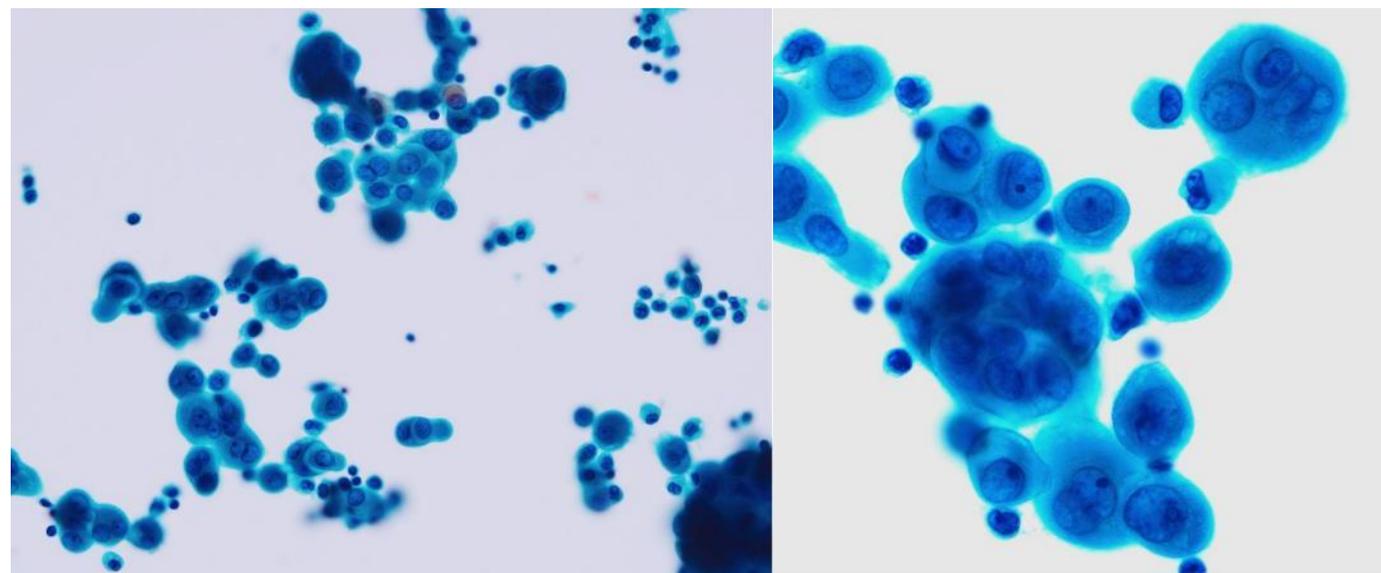
正解率



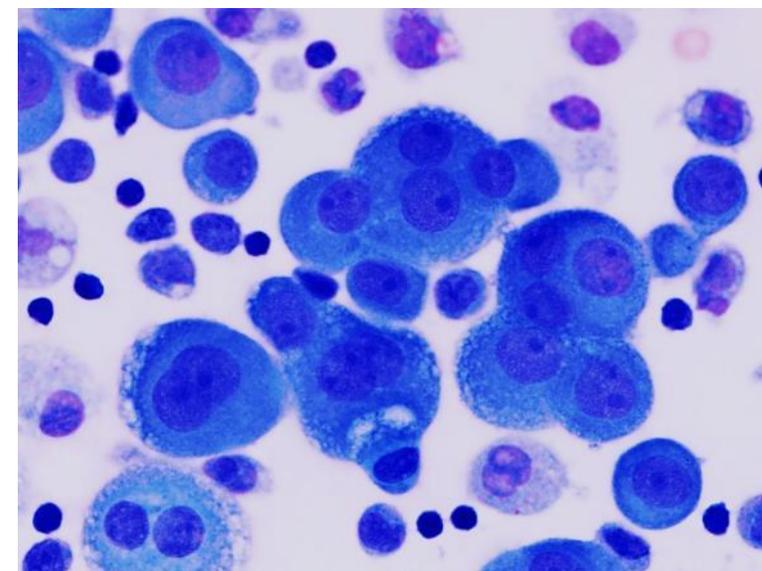
10題のうち3題が正解率100%で、すべての問題が正解率90%以上であった

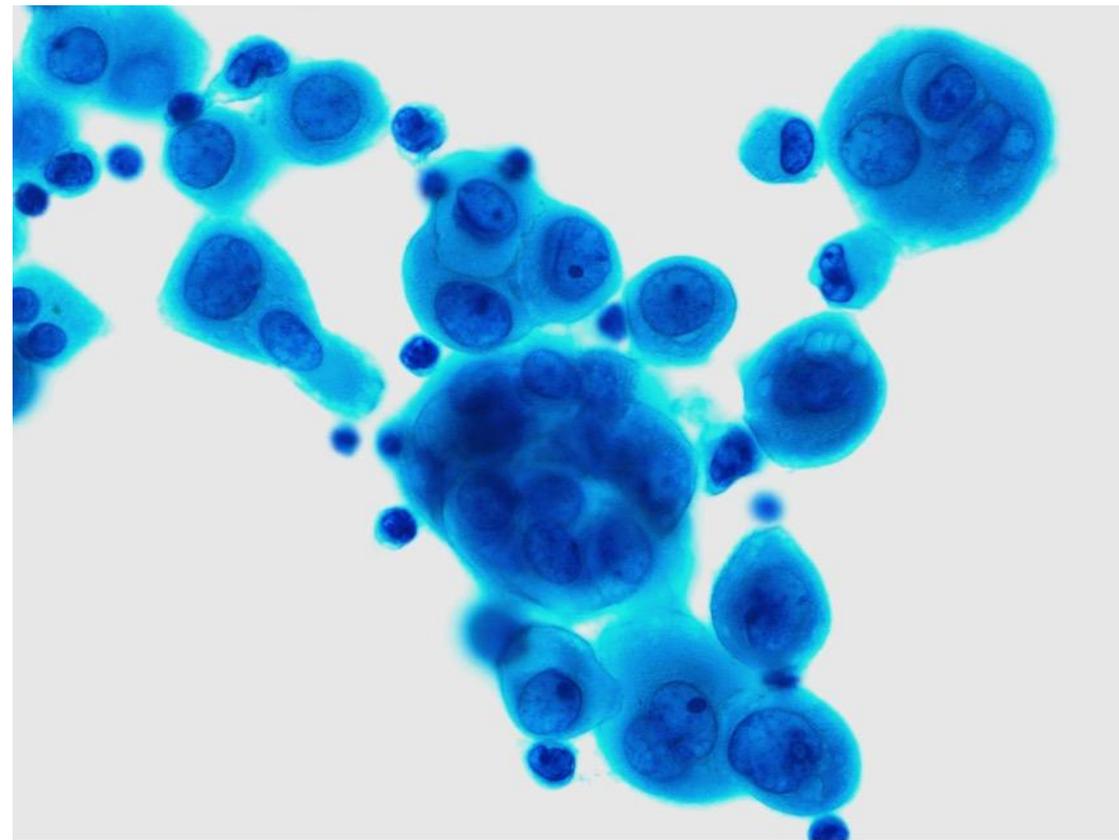
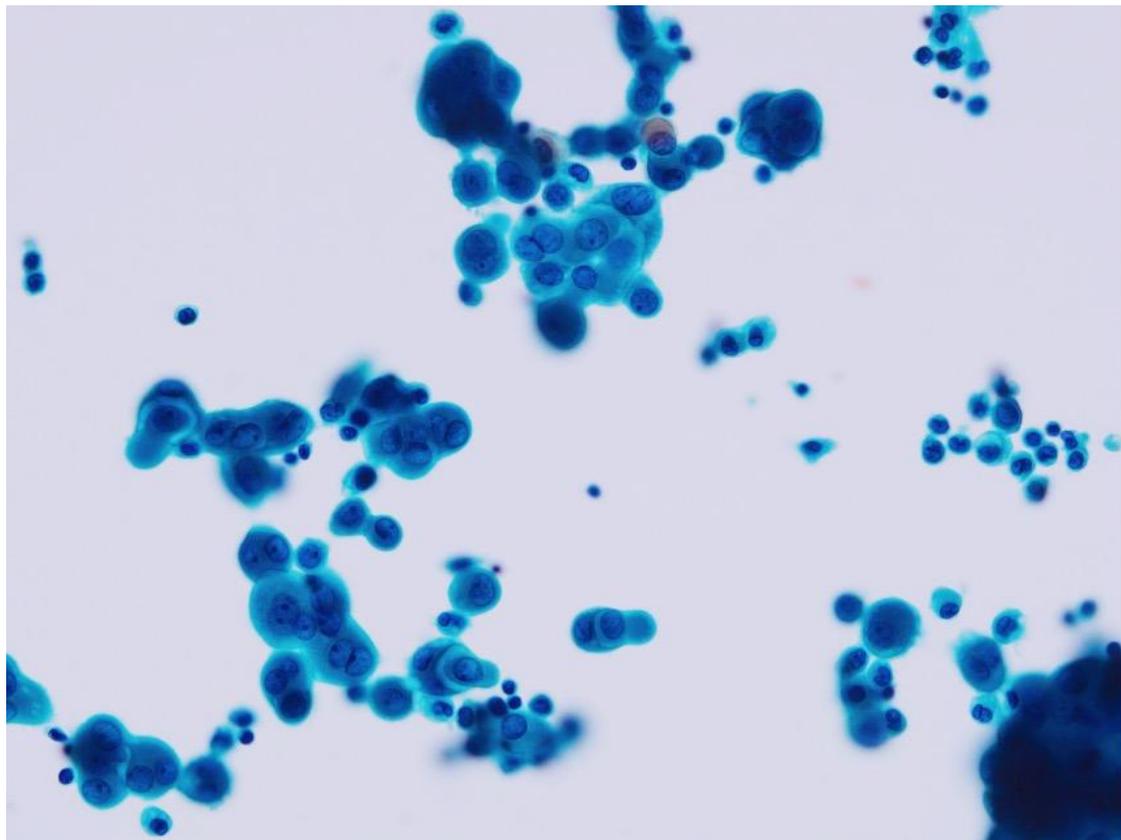
設問5

- ▶ 年齢 : 70代
- ▶ 性別 : 男性
- ▶ 臨床所見 : 胸水貯留
- ▶ 検体 : 胸水



選択肢	回答率(%)
a.反応性中皮細胞	1.8
b.腺癌	0.0
c.扁平上皮癌	0.0
d.悪性中皮腫	98.2
e.びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	0.0





【正解】 d.悪性中皮腫

少量のリンパ球を背景に、細胞質ライトグリーン好染性、核中心性で核形は円形から類円形、核クロマチンは微細顆粒状から細顆粒状、一部に明瞭な核小体を有する細胞を認める。これらは孤立散在性または乳頭状集塊として出現している。細胞質辺縁は微絨毛の発達により不明瞭で、細胞間には窓(window)形成を認め、hump様細胞質突起や相互封入像を認める。

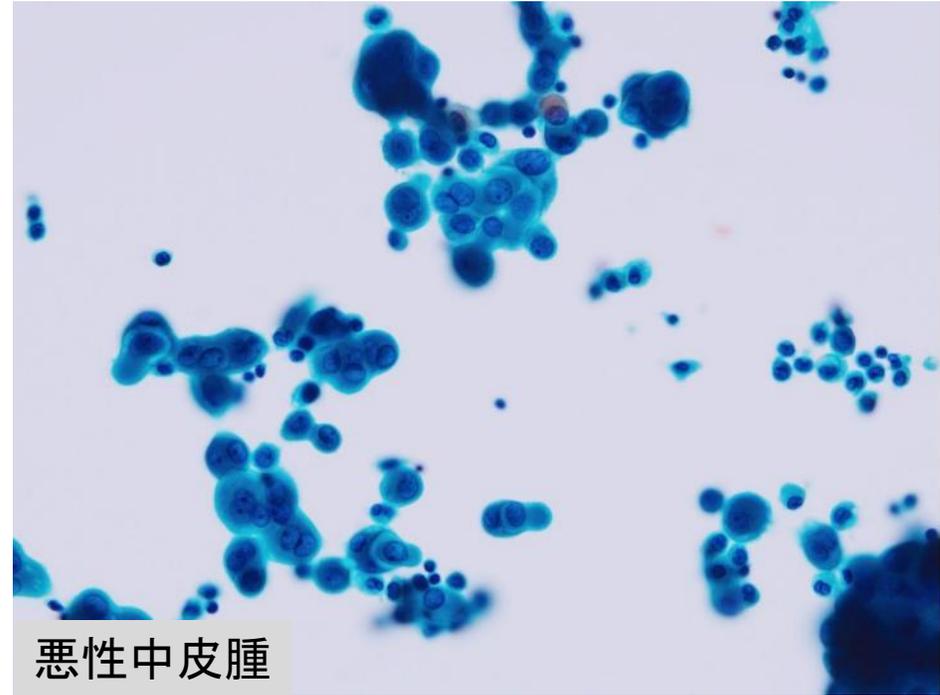
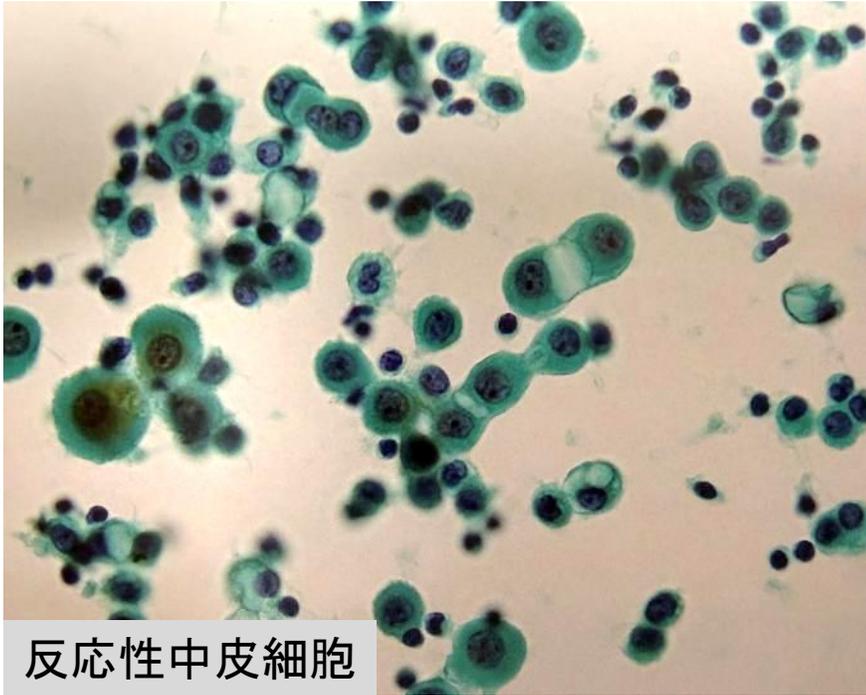
▼ 反応性中皮細胞の特徴



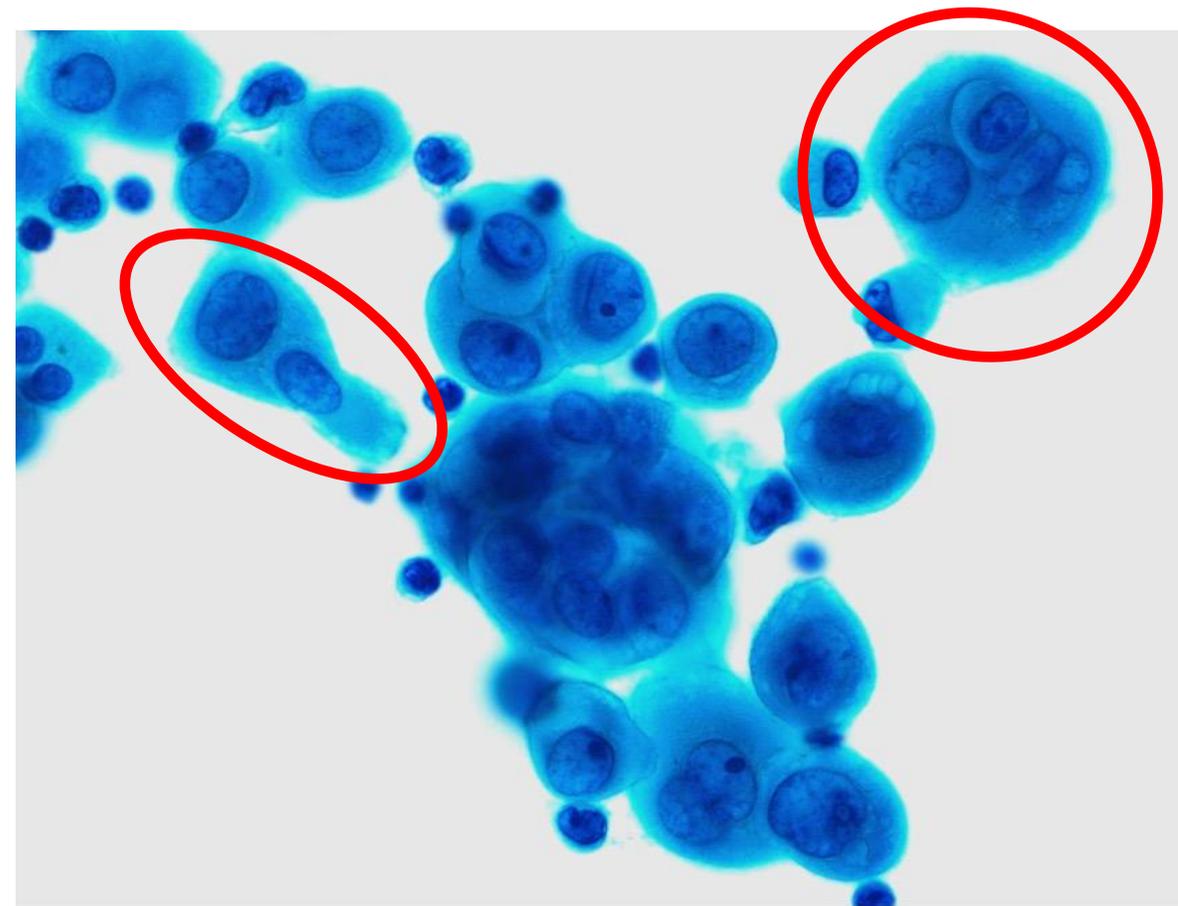
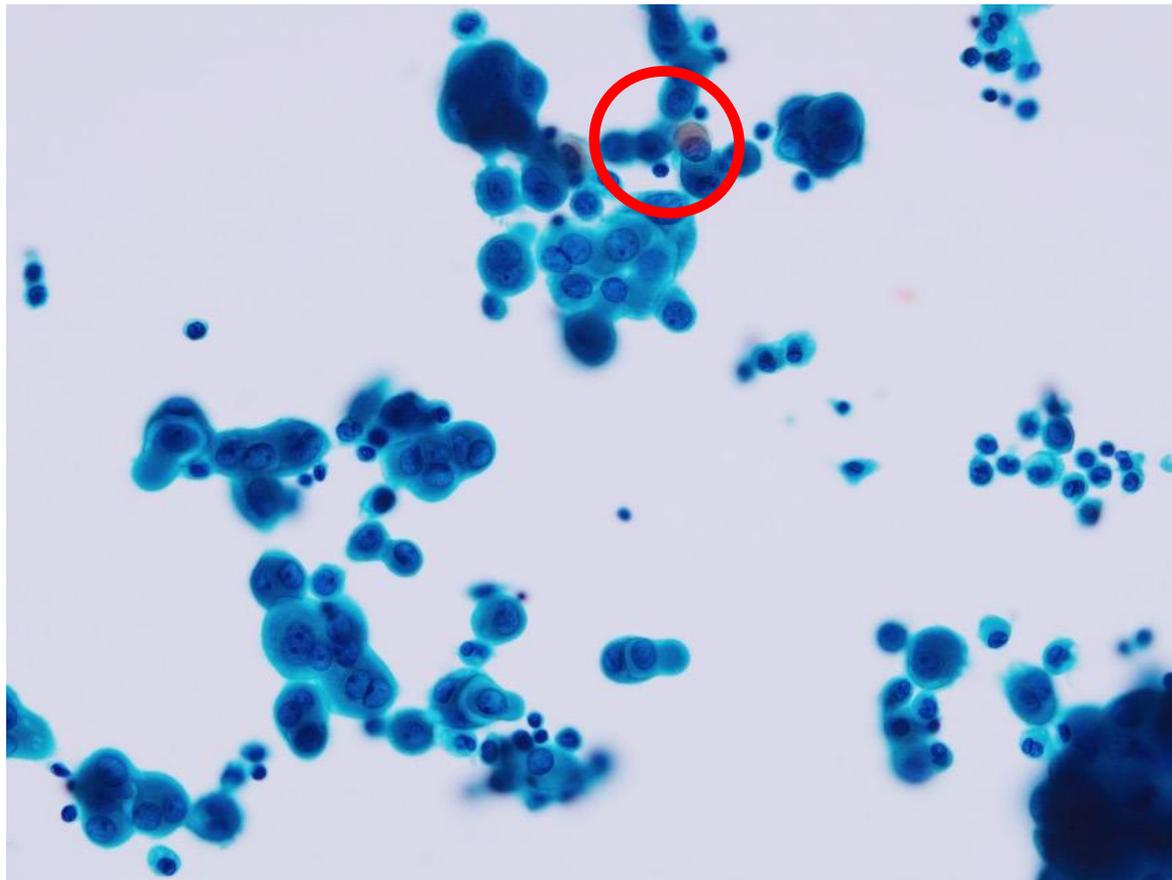
- ▶ 細胞形態は立方状や円柱状あるいは球状。
- ▶ 核は中心性で円～類円形。
- ▶ 細胞質はやや厚みのあるライトグリーン好染性。
- ▶ 隣り合う2つの細胞間にはwindow形成が観察される。

【スタンダード細胞診テキスト】より写真引用

▼ 反応性中皮細胞との鑑別



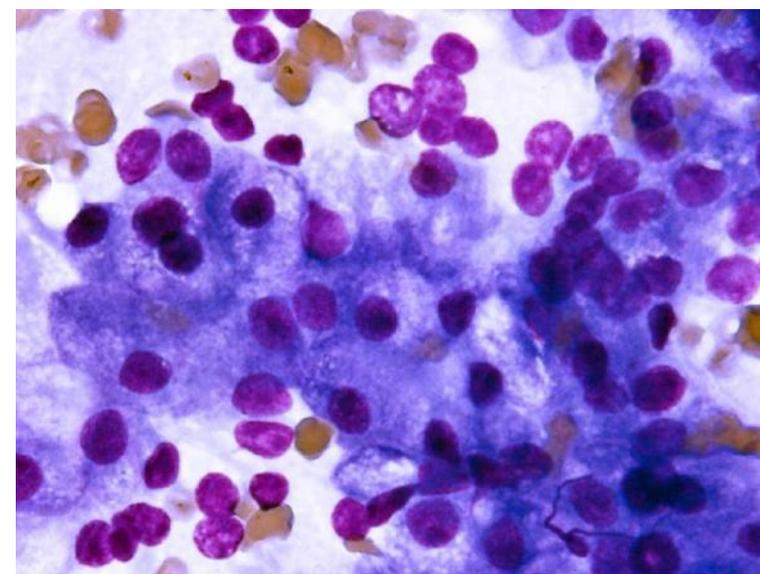
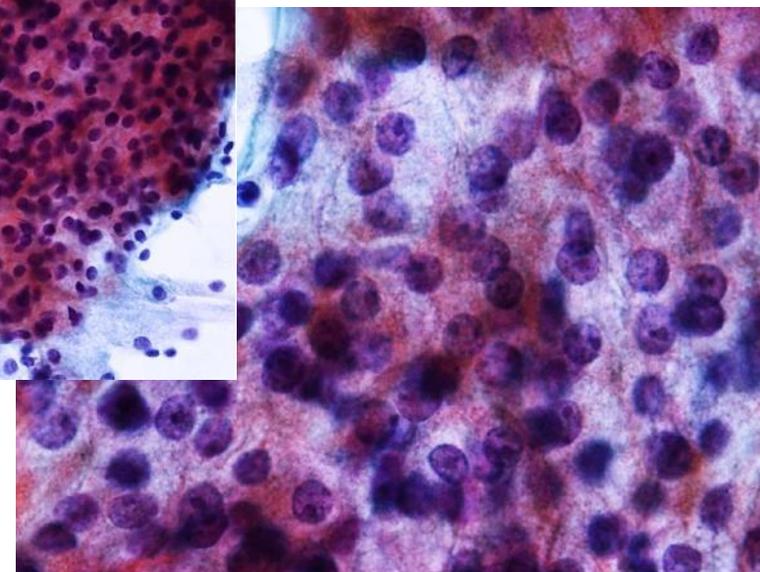
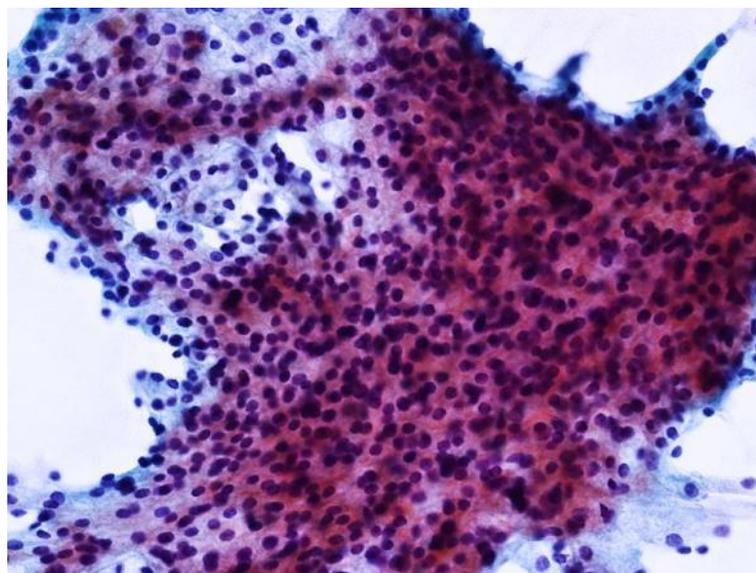
- ▶ 悪性中皮腫の典型例では多数の細胞集塊(10個以上の細胞で構成)の中心部にcollagenous stromaが多くみられ、humpが目立つことやOG好染細胞が出現する。
- ▶ 大型細胞や多核細胞の出現頻度も高い。
- ▶ 細胞質の辺縁は微絨毛の発達で不明瞭となる。



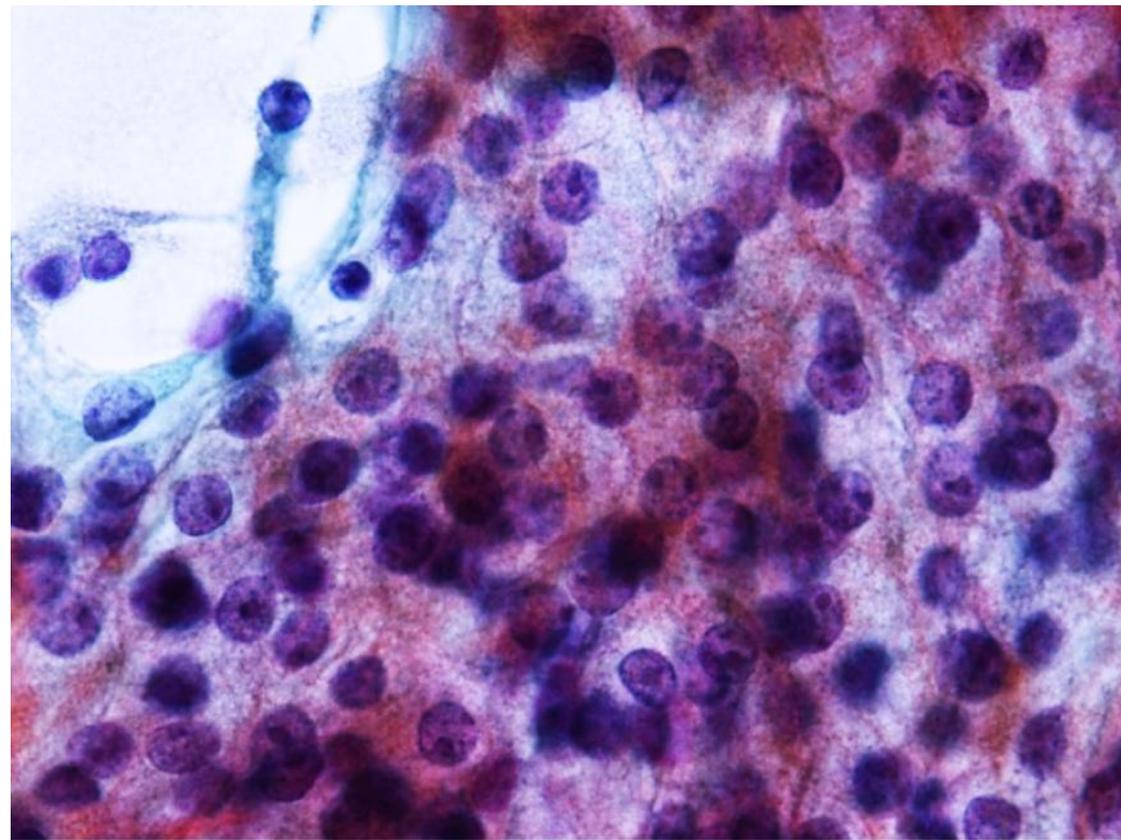
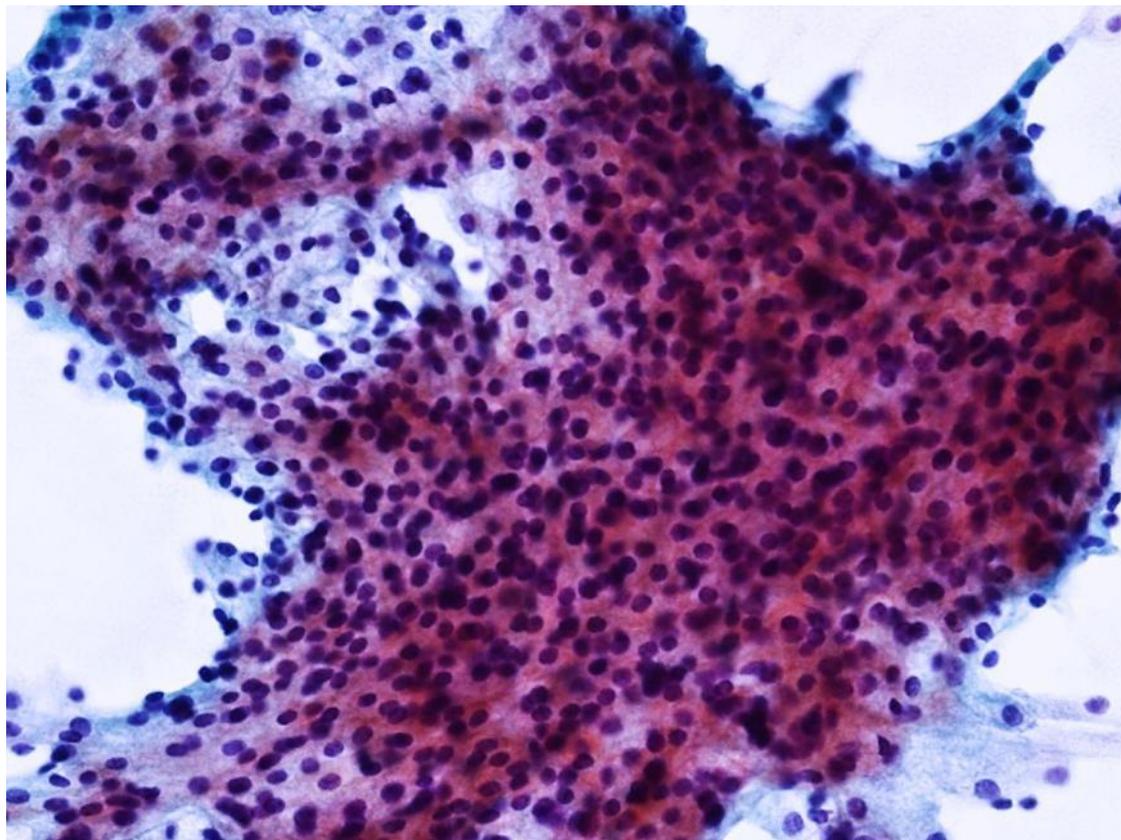
- ▶ 悪性中皮腫の典型例では多数の細胞集塊(10個以上の細胞で構成)の中心部にcollagenous stromaが多くみられ、humpが目立つことやOG好染細胞が出現する。
- ▶ 大型細胞や多核細胞の出現頻度も高い。
- ▶ 細胞質の辺縁は微絨毛の発達で不明瞭となる。

設問7

- ▶ 年齢 : 40代
- ▶ 性別 : 女性
- ▶ 臨床所見 : 左耳下腺腫脹
- ▶ 検体 : 耳下腺穿刺吸引



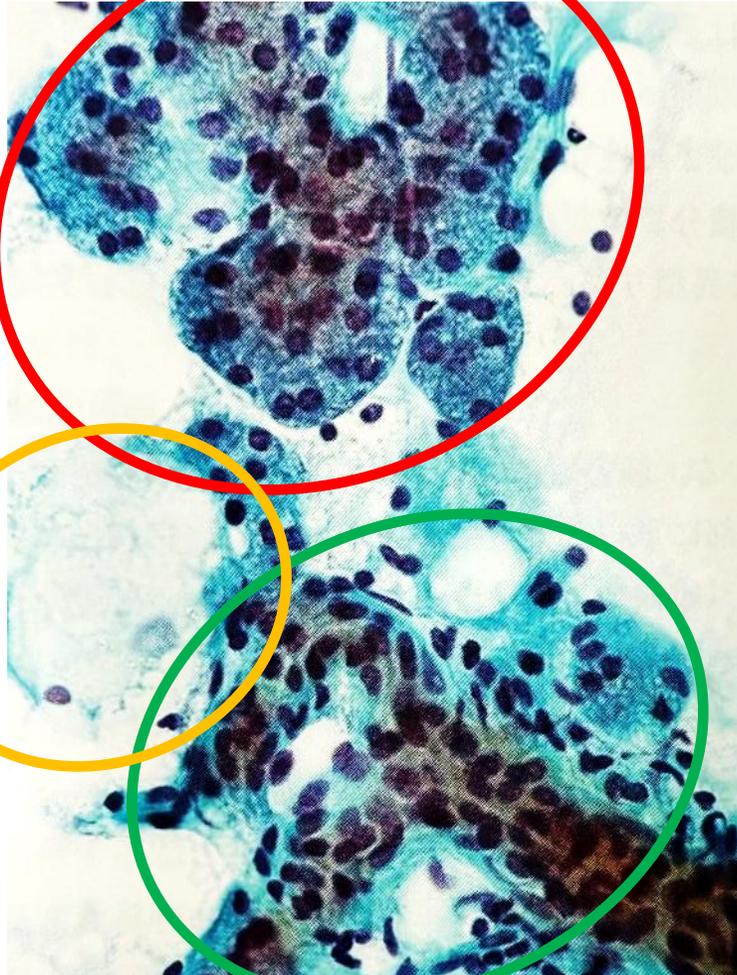
選択肢	回答率(%)
a.腺房細胞	3.5
b.多形腺腫	0.0
c.ワルチン腫瘍	0.0
d.腺房細胞癌	96.5
e.腺様嚢胞癌	0.0



【正解】 d.腺房細胞癌

きれいな背景に単調な細胞形態を示す細胞集塊が重積性を示しながら出現している。集塊の細胞密度は高く、不規則配列を示し、細胞境界は不明瞭である。N/C比は小さく、細胞質は空胞状を呈する。

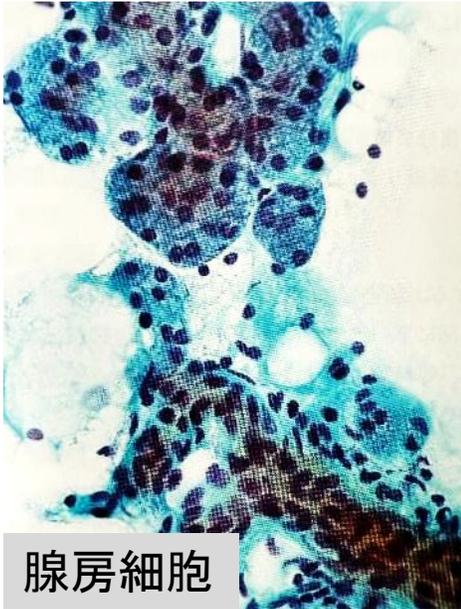
腺房細胞の特徴



- ▶ 正常唾液腺細胞は**腺房細胞**、**介在部導管細胞**、**脂肪細胞**が小集塊を形成して採取されることが多いが、採取量は少ない。
- ▶ 腺房と導管が1つのユニット(ブドウの房状)としてみられることもある。
- ▶ 漿液性腺房細胞の細胞質は泡沫状～粗大顆粒状で、顆粒は好塩基性、核は円形で偏在する。
- ▶ 粘液性腺房細胞は子宮頸管腺細胞に類似し、高円柱状、淡明で多空胞状である。

【細胞診ガイドライン5 消化器】より写真引用

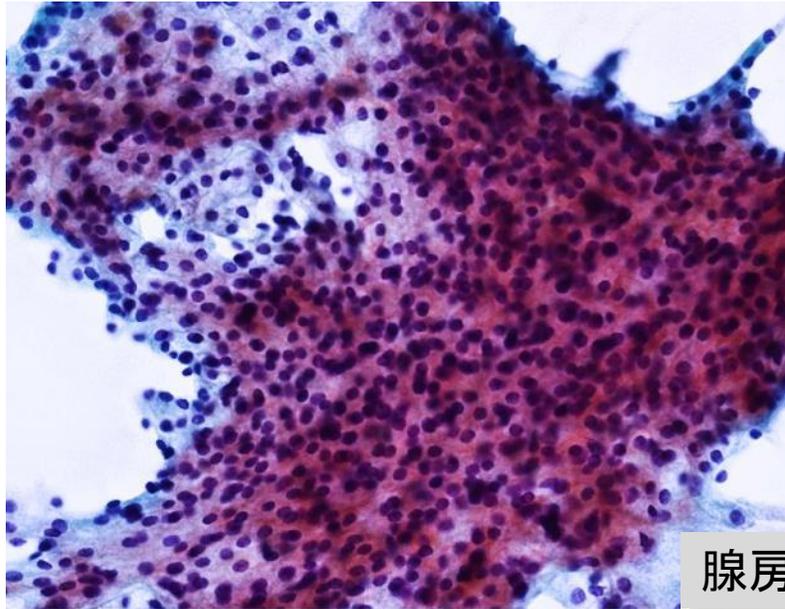
腺房細胞癌との鑑別



腺房細胞

腺房細胞

- ▶ 核が基底側に規則的に配列し、腺房の境界が明瞭。
- ▶ 集塊内に導管成分が併存している。
- ▶ 筋上皮細胞が介在している。



腺房細胞癌

腺房細胞癌

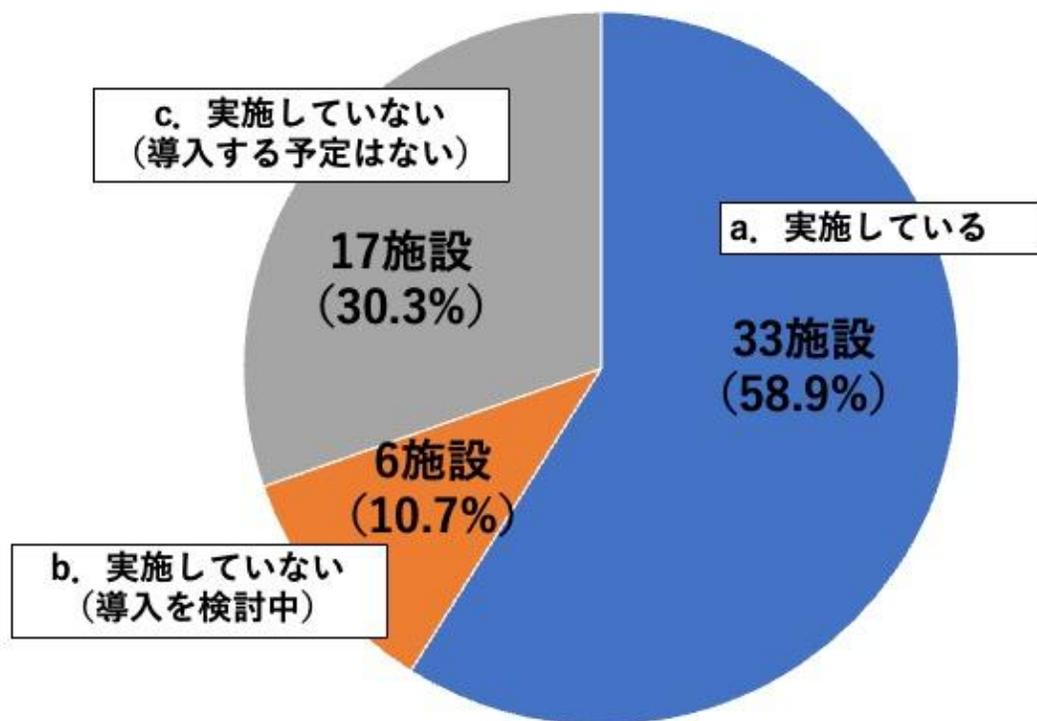
- ▶ 腫瘍細胞成分に富み、脂肪細胞の混在が乏しい。
- ▶ 集塊を構成する細胞の核は極性が乱れ、細胞密度も高い。

▼ アンケート調査について

- ▶ LBC標本作製の実施状況についてアンケート調査を行った。
- ▶ 回答施設総数は56施設であった(設問によって回答数が異なる)

設問1

自施設でLBC標本作製を実施していますか。



▼ 設問3

自施設でLBC標本作製を実施しているご施設に伺います。LBC標本作製を導入して感じている利点について教えてください。

鏡検面積が少なくスクリーニングの負担が軽減される (17件)

乾燥等による不適正標本の低減、標本品質の安定化 (14件)

標本作製手技の標準化 (11件)

遺伝子検査が実施可能 (6件)

細胞回収量が多い (6件)

スクリーニング精度向上 (5件)

検体保存が可能 (2件)

標本作製時間の短縮 (2件)

ギムザ染色標本作製可能 (1件)

LBC加算の算定が可能 (1件)

▼ 設問6

設問1で「c.実施していない(導入する予定はない)」を選択された方に伺います。導入しない理由についてお答えください。

機器・試薬のコストが高い (12件)

検体数が少ないため (7件)

設置場所の確保が困難 (1件)

標本作製を外注委託しているため (2件)

診療科が限られているため (1件)

機器のメンテナンス等、手間がかかるため (1件)

▼ まとめ

- ▶ 細胞検査部門の精度管理調査として、フォトサーベイを実施した。
- ▶ 10題のうち3題が正解率100%で、すべての問題が正解率90%以上であった。
- ▶ LBC標本作製の実施状況についてのアンケート調査を行った。
- ▶ 56施設中33施設がLBCを実施しており、6施設が導入検討していた。
- ▶ 未導入施設では、機器・試薬のコストや検体量が主な導入のネックとなっているようであった。

今後も、各ご施設の要望に沿った精度管理調査を実施できるよう努めていきます。引き続きご協力いただけますと幸いです。

▼ 令和7年度 精度管理調査 細胞検査部門

設問の解説やアンケート調査結果の詳細は精度管理調査総括集をご確認ください。

本年度も細胞検査部門精度管理調査にご協力いただきありがとうございます。